



環境経営レポート 2020

対象期間:2019年4月1日～2020年3月31日

発行日:2020年7月1日



日立建機グループ



新東北メタル株式会社

【 目 次 】

1. 環境経営方針	2頁
2. 事業概要	3頁
(1) 事業者名及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 活動範囲	
(4) 環境管理責任者及び連絡先	
(5) 事業内容	
(6) 事業規模	
3. 活動経営目標	4頁
(1) 2019年度及び中期(2021年度)数値目標	
(2) その他取組の行動目標	
(3) 実施体制	
4. 実績・取組結果	5頁
(1) 実績値と分析	
(2) エネルギー使用量及びCO ₂ 排出量の推移	
(3) 行動の取組結果	
5. 2020年度の目標と計画	6頁
(1) 経営〔数値〕目標	
(2) 経営〔行動〕計画	
6. 活動状況【写真集】	7頁
7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8頁
8. 管理責任者の評価	8頁
9. 代表者による評価と見直し・指示	9頁

環境経営方針

基本理念

鑄鋼品の製造・販売を通して、自主的かつ継続的な環境保全活動に取り組み、広く社会に貢献します。

行動指針

1. 環境経営マネジメントシステムを構築・運用し効果的な活動を行います。
2. 事業活動を通して、二酸化炭素・廃棄物・水使用量・化学物質使用量の削減及び省エネルギーを推進します。
3. 環境関連法規を順守します。
4. システムの運用及び環境経営目標を定期的に見直し、継続的に改善を図ります。
5. 生産に使用する資器材の環境への配慮を行いません。
6. 環境経営方針を全社員に周知徹底するとともに、環境保全・環境改善に関する意識向上のための教育と啓発に努めます。

2018年7月1日改定

新東北メタル株式会社

社長 来栖 直敏

(1) 事業者名及び代表者名

新東北メタル株式会社

代表取締役社長 来栖 直敏

(2) 所在地

本社・工場

〒018-3301

秋田県北秋田市綴子字上台121-2

TEL:0186-62-2381 FAX:0186-62-2387

HP:<https://www.shintohokumetal.co.jp/>

加工工場

〒018-3331

秋田県北秋田市鷹巣字本屋敷28

TEL/FAX:0186-62-2403

(3) エコアクション21の活動範囲

本社・工場及び加工工場(全組織、全活動対象)

(4) 環境管理責任者名及び連絡先

責任者:管理部長 赤間 敏

連絡先:TEL・FAX 所在地と同じ

e-mail :s.akama.im@shintohokumetal.com

(5) 事業内容

鋳鋼品の製造・機械加工及び販売

【建設機械、産業機械、橋梁、建築、造船、製鉄機械、他部品】

(6) 過去3年間の事業規模

規模	単位	2017年度	2018年度	2019年度
資本金	千円	255,000	255,000	255,000
生産量	t	3,116	3,042	3,287
従業員数	人	92	97	99

環境経営方針及び現行負荷・取組内容等を踏まえ、実現可能と考えられる削減幅を設定し、目標としている。

(1) 2019年度及び中期(2021年度)数値目標

(削減%は対基準値)

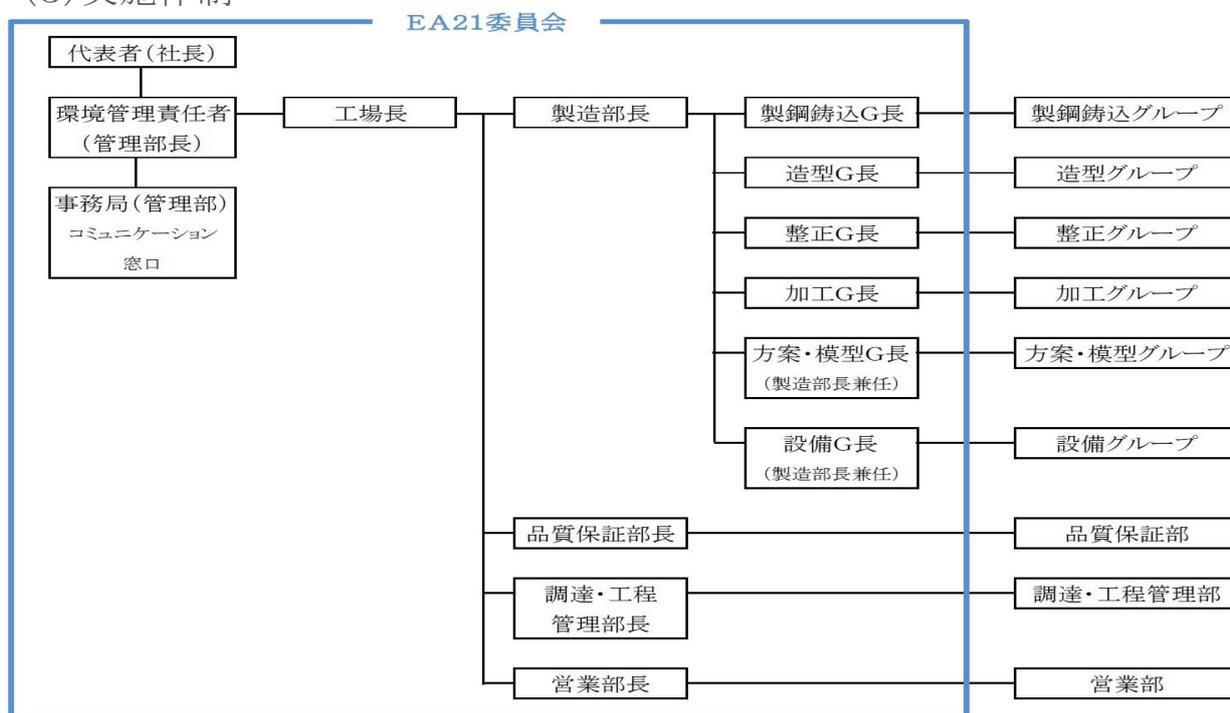
項目	単位	基準値 (2018年度)	中期目標 (2021年度)	2019年度目標
電力使用量	kWh/生産t	1931.5	(-3%) 1873.6	(-1%) 1912.2
LPG使用量	kg/生産t	120.8	(+18%) 142.5	(重油炉廃止の為、+20%) 145.0
※二酸化炭素排出量	t-CO2 /生産t	1.78	(-7%) 1.66	(-5%) 1.69
水使用量	m ³ /生産t ×100	0.68	(-3%) 0.66	(-1%) 0.67
産業廃棄物排出量	産廃t /生産t	0.55	(+2%) 0.56	(煤塵増加見込の為、+4%) 0.57
化学物質使用量 (V. O. C)	使用kg /生産t	1.68	(-4%) 1.61	(-2%) 1.65

※電力のCO₂換算係数は0.53としている。(テプコカスタマーサービス)

(2) その他取組の行動目標

- ・『環境適合品購入の推進』
エコマーク及びグリーンマーク製品他、適合品の優先購入を継続する。
- ・『環境保全意識の向上』
全従業員を対象に環境教育を実施する。
- ・『地域環境への協力』
年1回、地域のクリーンナップ活動に参加する。

(3) 実施体制

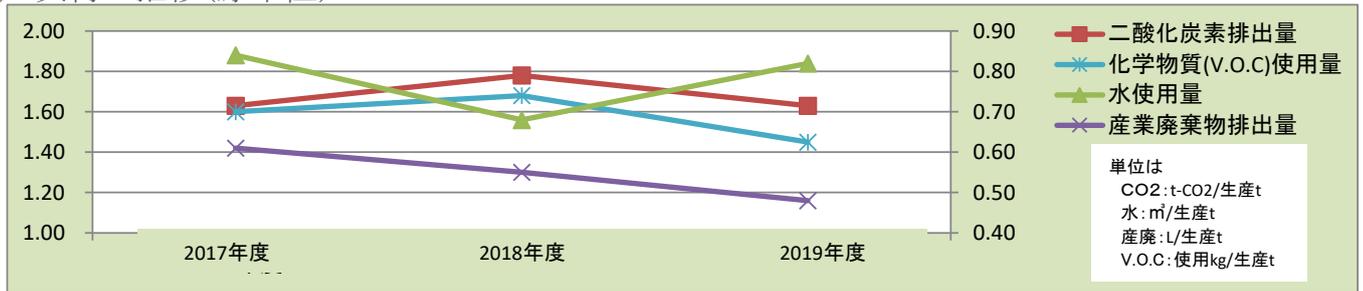


(1) 実績値と分析

項目	負荷実績推移			2019原単位			結果	分析	
	単位	2017	2018	2019	単位	年度目標			実績
電力使用量	kWh	6,108,636	5,875,549	6,343,164	kWh/生産t	1,943.3	1,956.4	△	電気炉前作業安全改善の為、作業方法を変更した結果、通電時間が延び、若干の増加となった。
LPG使用量	kg	347,763	367,418	494,412	kg/生産t	110.6	115.6	△	重油炉からLPG炉へ転換した結果、予想以上に使用量が増加した。
※1. (重油使用量)	L	497,000	442,000	159,000	—	—	—	—	2月に最後の重油炉を撤廃し、社内使用が無くなった。
※2. 二酸化炭素排出量	t	5,064	5,419	5,373	t-CO2/生産t	1.69	1.63	○	重油炉からLPG炉へ転換と共に、既存炉効率化改造を行なった結果、達成。
水使用量	m ³	2,632	2,065	2,706	m ³ /生産t	0.67	0.82	×	およそ3ヶ月に亘り漏水があった為、大幅オーバーとなった。
産業廃棄物排出量	t	1,900	1,670	1,579	排出t/生産t	0.57	0.48	○	鋳さいは増加したが、金属クズ(切断さい)を排出しなかった事から達成。
化学物質使用量(V.O.C)	kg	4,997	5,117	4,750	購入kg/生産t	1.65	1.45	○	塗装対象製品の生産量が減った事から達成となった。

※1. 重油は2019年度中に使用撤廃。 ※2. 電力のCO2換算係数は0.53としている。(デブコカスタマーサービス)

(2) 4負荷の推移(原単位)



(3) 行動の取組結果

環境目標項目	取組内容	実施状況※					評価
		4~6	7~9	10~12	2~3	計	
二酸化炭素排出量削減	照明						他の空調は、室温により未実施。
	①昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する。	2	2	2	2	8	
	②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不要な時は、消灯する。	2	2	2	2	8	
	③常に節電を心がける	2	2	2	2	8	
	冷暖房						
	①冷暖房の温度(冷房28℃、暖房22℃)を順守する。	2	1	1	1	5	
	設備の節電						
①昼休みなど、休憩時、不必要な個所は消灯し、パソコンモニターの電源は切る。	2	2	2	2	8		
②工場では、昼休みはコンプレッサーを停止、または稼働機を減らす。	2	2	2	2	8		
③工場溶解部門では、1ch当たりの電気炉操作時間の短縮に努める。	2	2	2	2	8		
自動車燃料使用量削減	①車両のアイドリングを行わない(冬期は可能な限り短縮)。	2	2	2	2	8	
	②急発進・急加速・空ぶかしを行わない等のエコドライブを実施する。	2	2	2	2	8	
	灯油・重油・LPG等使用量削減						
①お湯出しっ放し禁止。(灯油)	2	2	2	2	8		
②炉の熱もれの改善、バーナーの定期的清掃等適正管理を実施する。(重油)	2	2	2	—	6		
③処理量の適正化等、ガス炉の効率的な運用を行なう。(LPG)	2	2	2	2	8		
廃棄物削減	一般廃棄物削減						
	①使用済み用紙(片面コピー)の裏面を利用する。	2	2	2	2	8	
	②紙資料を配布せず、電子メールにて配信する。	2	2	2	2	8	
	③分別した紙ごみは、再生資源業者に引き渡し、リサイクルする。	2	2	2	2	8	
④商品や郵便や宅配便等の包装は、できるだけ簡易なものを選ぶ。	2	2	2	2	8		
産業廃棄物削減							
①ショットプラスト機のガラフルイ掛けにより、球を回収して再利用する。	2	2	2	2	8		
②砥石を適正使用し、廃棄量を抑える。	2	2	2	2	8		
③分別を徹底し、鉄製品を材料としてリサイクルする。	2	2	2	2	8		
④こぼれ砂を回収して再利用する。	2	2	2	2	8		
量水削減	水道水使用量削減						
	①水を出しっぱなしにしない。	2	2	2	2	8	
	②節水の表示を行なう。	2	2	2	2	8	
③朝礼時に随時、節水を励行する。	2	2	2	2	8		
物質学削減	クロム化合物使用量削減						
	①使用量を把握する。	2	2	2	2	8	
②適正量使用に努める。	2	2	2	2	8		
その他	グリーン購入						
	事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。	2	2	2	2	8	
	社員教育		2			2	
地域活動					2		
地域活動	地域のクリーンナップ活動に参加する。	2				2	
合計点		54	53	51	49	207	99%実施

※取組んでいる「2」、さらに取組が必要「1」、取組んでいない「0」



(1) 経営〔数値〕目標

項目	削減率又は 増加率(%) 単位	基準年度 (2019年度) 基準値	目標値(原単位)		
			2020年度	2021年度	2022年度
電力使用量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	kwh/生産t	1,956.4	1,936.8	1,917.4	1,898.2
LPG使用量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	kg/生産t	115.6	114.4	113.3	112.2
二酸化炭素排出量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	t-CO ₂ /生産t	1.63	1.61	1.59	1.58
水使用量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	m ³ /生産t	0.82	0.81	0.80	0.79
産業廃棄物排出量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	t/生産t	0.48	0.475	0.470	0.466
化学物質(V.O.C)取扱量削減	削減率(%)		1.0	1.0	1.0
	kg/生産t	1.45	1.44	1.42	1.41

(2) 経営〔行動〕計画

	環境目標項目	取組内容	
二酸化炭素排出量削減	電力使用量削減	照明 ①昼休みなど、部屋を使用していない時は、照明消灯を確実に実行する。 ②会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫、更衣室等不要な時は、消灯する。 ③常に節電を心がける	
		冷暖房 ①冷暖房の温度(冷房28℃、暖房22℃)を順守する。	
		設備の節電 ①昼休みなど、休憩時、不必要な個所は消灯し、パソコンモニターの電源は切る。 ②工場では、昼休みはコンプレッサーを停止、または稼働機を減らす。 ③工場溶解部門では、1ch当たりの電気炉操業時間の短縮に努める。	
		自動車燃料使用量削減 ①車両のアイドリングを行なわない(冬期は可能な限り短縮)。 ②急発進・急加速・空ぶかしを行なわない等のエコドライブを実施する。	
		灯油・LPG等使用量削減 ①お湯出しっ放し禁止。(灯油) ②処理量の適正化等、ガス炉の効率的な運用を行なう。(LPG)	
		廃棄物削減	産業廃棄物(製造副産物)の削減 ①ショットブラスト機のガラフルイ掛けにより、球を回収して再利用する。 ②砥石を適正使用し、廃棄量を抑える。 ③分別を徹底し、鉄製品を材料としてリサイクルする。 ④こぼれ砂を回収して再利用する。
			量水削減 水道水使用量節減 ①水を出しっぱなしにしない。 ②節水の表示を行なう。 ③朝礼時に随時、節水を励行する。
			物化学 V.O.C取扱量削減 ①使用量を把握する。 ②適正量使用に努める。
			その他 グリーン購入 事務用品を可能な限り、エコマーク・グリーンマーク商品にする。 社員教育 環境経営レポートを従業員全員に回覧し、意識向上を図る。 地域活動 地域のクリーンナップ活動に参加する。

2019.4 クリーンアップ(構内)



2019.4 クリーンアップ(構外)



2019.7 レポート回覧



購入エコマーク製品



産廃管理(廃プラ)



産廃管理(鉱滓)



7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

取組期間中の環境関連法規遵守状況は、2020年4月にチェックリストで確認し、その結果は下表の通りで法律違反は無かった。

行政・地域住民・その他からの訴訟も過去3年間皆無であった。

区分	法・条令等	規制内容	結果
総合	工場立地法	工場立地に伴う公害の発生を規制	○
大気汚染	大気汚染防止法	工場及び事業場から発生するばい煙等の排出を規制	○
	公害健康被害の補償等に関する法律	汚染負荷量賦課金の申告と納付	○
	秋田県公害防止条例第18条	硫黄酸化物排出量の規制	○
	フロン排出抑制法	エアコン等の定期点検(漏れ)	○
水質汚濁	水質汚濁防止法	漏油事故等の際、応急措置と届出の義務	○
	浄化槽法	浄化槽によるし尿処理等	○
	下水道法	公共下水道への排水	○
公害防止組織	公害防止組織整備法	公害防止統括者、公害防止管理者等任命の義務	○
廃棄物	廃棄物処理法	産業廃棄物と一般廃棄物の区分、規制措置、産廃管理票交付等状況報告書提出	○
	水銀汚染防止法	他廃棄物と混合しないよう保管し、許可業者に処分委託	○
省エネ	省エネ法	エネルギー使用に係る規制	○
	秋田県地球温暖化対策推進条例	CO ₂ 排出量等の報告書と排出抑制計画書の提出	○
保安	高圧ガス保安法	高圧ガスによる災害の防止に係る規制	○
	消防法	防火対策等に係る規制	○
労働	労働安全衛生法	使用資材のSDS入手	○

8. 管理責任者の評価

評価項目	内容
①環境関連法の遵守状況	環境法令等の違反は無し。
②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果	重油炉からLPG炉への切り替えを進めたが、軽油及び灯油の使用量が増加した事から、CO ₂ 排出量は目標を僅かにオーバーした。 産廃排出量及び化学物質使用量(クロム化合物)は目標を達成、水使用量は漏水対応が遅れた事から未達となった。
③問題点の是正処置及び予防処置の結果	CO ₂ 排出量削減は、トラック輸送の減少、バッテリーフォークリフト導入、重油炉完全廃止等により、達成出来る見込みである。水使用量は、突発的な漏水事故等が無ければ、概ね計画通りに削減出来る見込み。毎月の実績確認時に異常の有無把握に努め、発生時には速やかに対処していく。
④外部からの苦情等の受付結果	無し。
⑤組織に影響する法規制動向	無し。
⑥グリーン購入の推進状況	価格を考慮したうえで、積極的に継続購入している。
⑦エコアクション環境改善提案	今年度は無し。
⑧その他	毎月の『安全衛生・環境会議』議事録を全従業員に回覧し、安全意識と共に環境意識向上を継続的に図っている。また、親会社日立建機(株)環境部門の監査・指導を受け、改善を進めている。

見直し項目	評価	指示事項
1.環境経営方針	必要事項を満たしている。	今後必要に応じて見直す。
2.環境経営目標 及び 環境経営計画	作業環境改善及び生産効率向上の為に工場拡張工事が本格的にスタートしている。重油炉からLPG炉への転換完了し、今後も各種設備の更新により、CO ₂ 削減を実施していく。	2020年度の設備工事計画がスムーズに進められるようフォローする事。
3.実施体制	毎年同じ基準で定量的評価が出来る体制は、概ね確立されている。	担当替え等に備え、算出・評価方法を明確化する事。
4.その他	特に無し。	特に無し。

